平成23年7月23日付け　信州民報

東京農業大学生ら 山村再生プロジェクト ジャムづくり

長和町

ジャムづくりを楽しむ学生ら

長和町と東京農業大学はこのほど、3日間に渡り「山村再生プロジェクト」教育実習を開催。長和町をフィールドに遊休荒廃農地活用実習、自然資源保護活動実習を行った。先月に続いて4回目の取り組みだ。

この日は、東京農業大学国際食料情報学部食料環境経済学科で学ぶ32人が参加。美ヶ原高原での自然観察会、同大学圃場での夏野菜手入れ、ソバの播種など、農作業や草木染め、梅漬け、ジャムづくりに汗を流した。

ジャムズづくりは地元農家の、ブルーベリーを提供した翠川孝夫さんとルバーブを提供した横山王珂さんに加え、山口京子さんの三人が指導。農作業準備休憩施設で大鍋を使い、ブルーベリージャムとルバーブジャムの2種類を作った。

同大・菅沼圭輔教授は「農村地域の四季の食品を収穫し加工することで、食文化を体験できる」とし、「農家の人たちに教えてもらいながら交流できることが、プロジェクトの一番の学びになる」と話した。

ジャムづくり体験に参加した同大1年・大見亜友さんは「家でイチゴジャムを作ったことはあるが、こうやって収穫した場所で作るジャムは格別」と笑顔だ。長和町の担当者は「ジャムの活用方法についても、学生たちから意外なアイデアを発想してもらいたい。加工品を作ることで、多角的に農産物に関心を持ってもらえる」と話した。